

ストの強みを生かしつつ、小ロット生産や試作を強化する。新分野の取引拡大の足掛かりにする。試作部門の人材育成を進めるほか、5軸マシンングセンター(MC)を導入。国内工場の海外移転が進む中で生き残りにつなげる。

微細泡で酸素濃度上げる

西研デバイス(大阪府)と安斎管鉄 複合セラミックス活用

西研デバイス(大阪府)は、安斎管鉄(横浜市鶴見区)と共同で、複合セラミックスを用いた包括

流体式マイクロバブル発生システム(写真)を発売した。0.15〜0.2μmの低圧で活性酸素を供給するため、水中に



品の切削加工が主力。める。外形寸法は100mm角から。活性酸素発生器には直流パルス型無声放電式を採用し、エネルギーの効率化を図った。外形寸法は300mm角程度。マイクロバブル化した活性酸素はゆつくりと浮上するうちに水中へ溶け込むが、微細泡を高密度で大量発生する技術がなく、溶存酸素濃度を上げたのが難しかった。耐強酸性・アルカリ性の特徴を生かして、化学薬品の製造にも応用する考え。

アクセスしやすい状態に並べ変える機能や不要なファイルを一齐削除できる機能を搭載した。基本ソフト(OS)「ウィンドウズXP」のみに対応。価格は店頭で販売するパッケージ商品が7140円、ダウンロードする場合3980円。初年度の販売目標は3万本。新製品は同社の先発ソフト「バージョンアップ」で、16種類の機能を搭載または強化した。インクジェットプリンタのインク使用量を最大で75%削減する機能などが新たに加わった。

社長交代

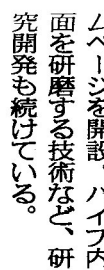
「微細加工分野を強化し始めてから技術者の雰囲気が変わってきた」と宏和は話す。それまでより生き生きとプライドを持って仕事に取り組んでいるように見えるという。「難しい図面を見ると、ニヤリと笑う技術者がいる」と、宏和はいふ。

今年4月、宏和からバトンを受け取り、弟の二九良三が社長に就任した。市場環境は悪化していたが、以前からこの時期での社長交代を決めていたのと、会社

が活発であり続けるため若い感性に道を譲るべきだとの考えから、計画通り交代を実現した。微細加工技術やβチタンパイプといった独自技術への自信を深めた同社は、社長交代とともにさらに進化を続けていく。

ある生物の卵や魚の幼生などを破壊しない。価格は約100万円から。水質や土壌浄化に取り組み自治体や環境企業向けに売り込む。

システムは、マイクロバブル発生装置と活性酸素発生器で構成する。発生装置は配管内に配した内気型複合セラミックスに活性酸素を低圧で送り込んで直径10μm(ナノは10億分の1)の高密度の泡を大量に発生させ、水中の溶存酸素濃度を高



βチタン合金のパイプ化技術を応用した金属ニードル

βチタン合金のパイプ化技術を応用した金属ニードル

βチタン合金のパイプ化技術を応用した金属ニードル

βチタン合金のパイプ化技術を応用した金属ニードル

βチタン合金のパイプ化技術を応用した金属ニードル

描いた姿へ変ぼう

βチタンパイプの開発や

βチタンパイプの開発や

βチタンパイプの開発や

βチタンパイプの開発や

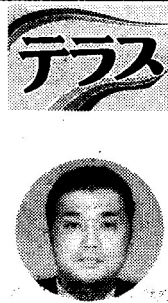
βチタンパイプの開発や

自信に自信

(敬称略)

先行者利益

▽:「早めの対応が功を奏した」と喜ぶのはアトコート(大阪府東大阪)社長の後藤基志さん。防錆紙は金属部品輸送で欠かせない存在。原料薬品を薬品メーカーが登録しないこともあり「制度の理解から手探りだった」と振り返る。



後藤さん 用は今後10年間で計2000万円にも。

金属部品をサビからとって負担が大きい」と苦言を呈すが、一方で「対応に遅れている競合化学物質を欧州の化学物質規制(REACH)に備登録申請した。」

(東大阪)